

【テーマ】

「大学業務DX と 産学連携」

【主催】事務システム分科会

活動報告

日時：2024年11月11日（月） 14:00 -17:00
11月12日（火） 9:20 -12:00
場所：11日/東北大学 片平キャンパス + オンライン（Webex）
12日/東北大学 青葉山キャンパス + オンライン（Webex）
出席者：11日/131名、12日/57名

1. 研究内容

CS研としては、2019年度を最後にしばらく実施を見合わせておりましたが東北大学様に会場をお借りして2日間の宿泊研修を開催しました。初日のテーマは大学業務DXです。DX推進のための学内横断プロジェクトチームを作り先進的な取り組みをされている情報部デジタル変革推進課様より、2件の事例をご紹介いただき、その後、意見交換を行いました。

2日目のテーマは産学連携です。次世代放射光施設「ナノテラス」見学の後、研究成果の社会実装や産業界との幅広い連携を推進している産学連携機構様より、産学共創とスタートアップの取り組み事例をご紹介いただきました。（内容詳細については「3項 概要レポート」をご参照下さい。）

2. スケジュール

【1日目 片平キャンパス】

- 14:00 開会
- ご講演 「東北大学公式ポータルアプリの開発と展望」
東北大学 情報部デジタル変革推進課 課長補佐 佐藤 卓 様
 - ご講演 「東北大学における仮想クライアントとChromebook導入事例」
東北大学 情報部デジタル変革推進課 専門職員 川上 翔 様
 - 意見交換
 - 全体共有
- 17:00 閉会

【2日目 青葉山キャンパス】

- 9:20 開会
- 見学会「次世代放射光施設 NanoTerasu（ナノテラス）」
NanoTerasu総括事務局広報グループリーダー 加道 雅孝 様
 - ～見学会終了後に講演会場に移動（休憩含む）～
 - ご講演 「東北大学の産学共創とスタートアップの取組について」
東北大学 産学連携機構 副機構長 副理事 小田 喜夫 様
- 12:00 閉会

「大学業務DXと産学連携」

事務システム分科会が、11月11日（月）と12日（火）の2日間にわたり、東北大学の会場とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。久しぶりの一泊研修となり、見学会や懇親会も開催されました。

初日のテーマは大学業務DXで、学内横断プロジェクトチームを作り先進的な取り組みをされている情報部デジタル変革推進課様より、2件の事例をご紹介いただき、その後、意見交換を行いました。

2日目のテーマは産学連携です。次世代放射光施設「ナノテラス」を見学させていただいた後、研究成果の社会実装や産業界との幅広い連携を推進している産学連携機構様より、産学共創とスタートアップの取り組み事例をご紹介いただきました。

共立女子大学の小國氏（事務システム分科会運営委員）の司会で進行し、同氏が「今回は東北大学様にご協力いただき、仙台での開催となりました。最先端の事例を聞いて、国公立関係なく多くの学びを持ち帰っていただければと思います」と開会の挨拶を述べ、その後講演に移りました。

【1日目：片平キャンパス】

■ご講演：

「東北大学公式ポータルアプリの開発と展望」

東北大学 情報部デジタル変革推進課 課長補佐 佐藤 卓 氏より

○様々な情報が集まるハブとなるポータブルアプリを構築中

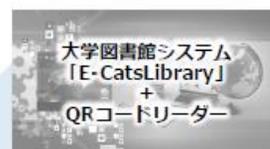
東北大学のポータブルアプリについてご紹介します。3年前から構想し、今年4月に導入が決定しました。現在構築中で、来年度からの運用開始を目指しています。当初は、「学内で、学生証や職員証の代わりにマイナンバーカードを使えないか」と考えましたが、様々な課題があり、現在は学生証、職員証をアプリ化してQRコードで連携すべく構築を進めています。また図書館システムも改修し、ポータブルアプリのQRコードで、図書館の入退館、貸出返却、自動貸出機の利用等ができるようになる予定です。



学生証・職員証をスマートフォンに搭載

東北大アプリ

3



図書館

入退館システム
+
QRコードリーダー



自動貸出返却機
+
QRコードリーダー



学生証・職員証のアプリ化・図書館システムからはじまり、
今後は様々なシステムと連携し、サービスの提供・機能の拡充を継続的に実施
個人と東北大学を繋ぐ「誰でもつかえる」プラットフォームとして発展

アプリは、内田洋行のナレッジポータルをベースに構築しています。本学の学生だけではなく、将来的には職員、教員、また保護者、地域社会、研究機関、初等中等教育機関とも連携できるハブとなることを見据えています。また災害時の安否確認機能も組み込めるのではと議論しているところです。単にデジタル化するのではなく、プッシュ通知などを有効に使うすべての情報へアクセスできるハブのアプリを目指して設計しました。

エンrollment・マネジメントも重要視しており、将来的には入学前の高校生がオープンキャンパスへ参加した情報等から卒業後まで一元的な管理をして、学生のカスタマージャーニーを創出することが目標です。このポータルアプリを核として、図書館、リスティング、寄付等を紐づけ、またマイナンバーカードと紐づけて認証することで、卒業後の各種証明書発行をオンライン／ペーパーレス化することも計画しています。

アプリの機能を充実させれば、今まで様々なプラットフォームがあって複雑だった環境が一本化され分かりやすくなり、自ずと窓口業務の負担が減るメリットもあるでしょう。

■ 質疑応答

Q:DX推進の組織について教えてください。

A:毎年公募で、チームを編成しています。2021年度は14チーム、2022年度は16チームで、毎年メンバーは変わります。年度初めに具体的に計画を立てて、進捗の方針、総括、運営を行っています。「目安として、自分の業務時間の20%、週1日程度をDX推進チームで使っていただくこと」と決めました。全体のトップは副学長で、人事評価の対象にもなっています。

Q:デジタルの学生証は、JRでの学割利用の際に使えないのではないですか。

A:はい、JRとも協議していますが、今のところ認められないという回答です。ただし本学にはJRを使っている学生は多くなく、仙台市交通局（地下鉄、バス）が主です。こちらからはデジタル学生証でも大丈夫と回答いただきました。このような状況もあるため、一気にプラスチックカードをなくすのは難しく、図書館以外の利用に関しては現在も検討中です。

最後に、アライアンスのご紹介をします。東北地区業務DXチームとして、6つの国立大学とともに連携しながらDXを推進しています。

参考：<https://www.youtube.com/watch?v=4hnNzaKvBto>

また、全国の国公立大学、民間企業に参加いただいている大学DXアライアンスもあり、参加するとツールの説明資料や動画等を見ることができます。SNSのように業務以外の交流の場にもなっています。簡単な手続きで参加できますので、ぜひご検討ください。

[東北大学DXアライアンス](#)

また、香川大学とともに、DXcabiNETという取り組みも行っています。各部局に説明し、香川大学のアプリを使ってもらったりしています。「科研費申請問い合わせチャットボット」等参考になるソリューションもあると思いますので、ご覧ください。

<https://case.dx.tohoku.ac.jp/>

■ ご講演：

**「東北大学における仮想クライアントとChromebook導入事例」
東北大学 情報部デジタル変革推進課 専門職員 川上 翔 氏より**

○仮想クライアントを活用した業務用Chromebookの4つのメリット

まず本学のネットワーク環境についてご紹介します。青葉山キャンパスに、サイバーサイエンスセンターがあり、各キャンパスをTAINS（東北大学総合情報ネットワークシステム）で接続しています。各学部・研究科ごとの独自ネットワークと、キャンパス・部局を跨いだ事務室用ネットワークがあり、勤務する場所によって2種類の学内ネットワークを使い分けています。テレワーク等学外からの利用もあります。

このような構成のため、どこからでもネットワークに依存せずに基幹業務に接続できる環境が必要でした。そこで導入したのが、Chromebookを用いた仮想クライアントです。DaaSのパーチャルマシンに接続して業務が行えるよう構築しました。クライアントにVMware Horizon Clientを導入し、Microsoft Office（Word、Excel等）や各種基幹業務システムを利用できるようにしました。現在、ChromeOSではMicrosoft Officeの提供がありませんが、仮想クライアントを使うことで、利用できています。



事務職員の業務環境として、学内における様々なネットワークや自宅や出張先等の学外ネットワークからOfficeや基幹業務システムを利用する必要がある。

仮想クライアントの利用！！

事務職員約1,700名



Microsoft Officeの利用

Word
Excel
Power Point 等

各種基幹業務システム

財務会計システム
人事給与システム
学務情報システム 等



仮想クライアント

Chromebookの導入も仮想クライアントがあればこそ!!

制度面では、2021年4月にテレワーク及びフレックスタイムに関する制度を整えました。コアタイムだけ決まっていますが、週に何回でもテレワークが可能です。2021年8月には、それまでオンプレミスで構築されていた仮想クライアントを更新して、クラウド型デスクトップサービスへ。仮想マシンのスペックも大幅に向上しました。同年10月に1,200台以上のChromebookを職員に配布し、在宅勤務や出張等で使っています。

Chromebookを選んだ理由を4点、ご紹介します。

1. 持ち運び

これまで本学では、主にデスクトップ型PCを使用していましたが、テレワークや出張が増え、持ち運びやすいノートPCが必要になりました。コロナ禍で7割の職員が在宅勤務となったのですが、自宅にパソコンがない人もいて業務に支障を来しました。

Chromebookを仮想クライアントとして使えば、ノート型で持ち運びやすく、また本体にデータが保存されないため、紛失や盗難時にも安心です。

2. Webミーティング対応

コロナでWebミーティングが急速に増えましたが、本学のデスクトップ型PCには、カメラやマイクが付いておらず、外付けしても仮想クライアントとの相性が悪いことがありました。Chromebookにはカメラもマイクも付属しており、Webミーティングにすぐに使え、便利でした。

3. トラブル発生時

これまでは仮想クライアントがシステム障害等で利用できない場合、全く仕事ができなかったのですが、Chromebookなら、GmailやGoogle Drive、Google Meet、Google Spreadsheet等は問題なく使えるため、ある程度の仕事はできるようになりました。

4. セキュリティ

ChromeOSはサンドボックス内で処理が行われることを評価しました。ウイルス対策が不要で、OS更新が自動なのも魅力でした。

Windowsのショートカットキーが使えないという懸念に関しては、Chromebookでもほぼ同等の機能があり、そういった情報をナレッジサイトで共有しています。なおライセンスに参画していただければ、ナレッジサイトの情報を見ることができます。印刷に関しては、当初一部の機能が利用できない問題がありましたが、幸い直後に行われたChromeOSのバージョンアップで改善しました。

現在は、Microsoft Officeを使うには、仮想クライアントが必須です。今後はアプリケーション仮想化も視野に入れていきます。サーバー上で動いている様々なWindowsアプリケーションを、手元の端末で動いているかのように利用できる技術で、ChromebookやWindowsに依存しない業務環境にしたいと思い、整備を進めています。

■ 質疑応答

Q:ファイルサーバーをGoogleドライブへ移行した際、問題はありませんでしたか。

A:Google Driveには階層が20まで等、いくつか制限がありました。学内で説明会を開き、各部門で移行するか情報部門で移行するか選んでもらいました。移行を機に、フォルダを切り直したり、不要なファイルを削除したりしました。一部はローカルのNAS等へ移行してもらいました。移行後は、Googleのアプリを入れることで、外付けのディスクのように扱えますので、特にクレームなどはありません。

■ 意見交換：

約1時間にわたり、4グループに分かれて意見交換を行いました。オンラインでも中継し、オンライン参加の方に視聴していただきました。その後全体へ発表しました。

Aグループ

東北大学の佐藤さんに、学生向けのアプリについて伺いました。「アプリや通知の仕組みも大事だが、それ以上に大事なものはコンテンツで、発信側は重要だと思って通知しても、メールと同じで結局見られない」という問題について議論しました。今後は、情報の整備、整理、取捨選択も情報システム部門の重要な仕事だという意見がありました。AIで効率化できれば、という話題も出ました。

Bグループ

東北大学の川上さんに、Chromebook配布等の具体的な話を伺いました。また、DX推進のアライアンスは、具体的な成果を目指すというより関係性を構築するのが趣旨とのこと。これに関連して、グループのメンバーの所属する大学が、他大学とどのように連携しているか、情報共有をしました。テレワークに関しては、業務によって不向きがあり、それは今後の課題では、という意見が出ました。

Cグループ

東北大学の山崎さんから、実際にChromebookの画面を見せてもらいながら講演の詳しい内容をお聞きました。他大学では仮想環境を止めようとしている大学もあり、いろいろな方向性があると勉強になりました。テレワークについて、端末、印刷、運用面等各大学のやり方を情報共有しました。ナレッジポータルやプッシュ通知についても議論し、プッシュ通知を切ったという大学もありました。

Dグループ

各大学のDX推進の体制を情報交換しました。また、生成AIやRPAについて、その検証や成果などについても意見交換しました。デジタル学生証については、定期試験の本人確認や、キャッシュレス機能、入館等、様々な場面におけるICカードとQRコード型のメリット・デメリットを議論しました。すでに導入済みのICカードリーダーを使えるデジタル学生証があると良い、という話も出ました。

■ 閉会：

1日目の結びに立正大学の白川氏（事務システム分科会幹事）が「CS研でDXがテーマに決まったときから、東北大学さんの取り組みは参考にしていました。今回直接話を伺うことができ、また国公立大学私立問わず、オンラインを含め非常に多くの方に参加いただいた貴重な分科会となりました」と述べ、翌日の案内をして1日目は閉会となりました。

【2日目：青葉山キャンパス】

2日目は青葉山キャンパスを訪問しました。はじめにNanoTerasu総括事務局広報グループ様より次世代放射光施設「NanoTerasu（ナノテラス）」をご紹介いただきました。その後、本日のテーマでもある産学連携に関して、産学連携機構様より、東北大学における取り組みについてご講演いただきました。

■ご講演：

「東北大学の産学共創とスタートアップの取組について」 東北大学 産学連携機構 副機構長 副理事 小田 喜夫 氏より

○初の「国際卓越研究大学」として、産学共創やスタートアップ支援に一層の注力

最初に簡単に東北大学のご紹介をします。本学では「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」という3つの理念を掲げています。開校以来、実学を尊重してきており、この講演のテーマの産学共創は、この3つの理念にも合致します。現在、民間企業との共同研究の実施件数は東大に続いて全国第2位。東北大学発のベンチャー、スタートアップは年間20～30社誕生しており、現在200社を超えています。

先週、文部科学省から「国際卓越研究大学」の認定も受けました。現在、唯一の認定校です。優れた人材を集めて、社会に役立つ優れた研究を行い、社会的インパクトを与えること目標にしています。

プラットフォーム型の連携を念頭に置いており、企業等との共創研究所を立ち上げ、推進しています。イノベーションの源泉となる共創研究所の数は、現在32件。東北電力、トヨタ自動車東日本、富士通等が、大学のキャンパス内に拠点を設け、Face to Faceの活動を行っています。リーダーは企業出身者で、本学教員がカウンターパートとなりサポートする体制です。チームは研究室、部局の壁を越えた横断的なメンバーで構成されています。大学は知見の提供、ナノテラスのような施設の提供、人材育成等で協力します。また、プロジェクトではなくプラットフォームですから、これらを固定化せず、柔軟に複数のテーマを掲げて運営しているのが特徴です。

先ほど見学いただいた、ナノテラス（3GeV高輝度放射光施設NanoTerasu）は、企業に使ってもらうことを意識して建設されました。学術価値にこだわらない等利用のハードルを下げ、成果を公開する必要もありません。その結果、ナノテラスの参画企業数は200近くに上っています。

現在日本の半導体の生産シェアはピーク時に比べだいぶ減っていますが、東北大では半導体研究の長い歴史があります。半導体テクノロジー共創体を立ち上げ、例えば国家プロジェクトの一部として「光電融合インターフェイスメモリ開発」等を行っています。ほかに、東北大学病院と東北メディカル・バンク機構等とが連携したライフサイエンス分野の研究、環境分野などを扱うグリーン未来創造機構等の取り組みもあります。



東北大学独自のシームレスなスタートアップ支援システム

18

アントレプレナーシップの育成

アントレプレナーシップ 育成プログラム

東北大学に起業文化を醸成するために、学生・研究者向けに多様なプログラムを実施（令和5年度受講者2,328名）

- アントレプレナー入門塾
- ジャパンバイオデザイン東北プログラム
- Garage Gathering
- Early Work Program
- 東北大学ビジネスアイデアコンテスト
- アイデアソン（第一生命×NTTデータ）

事業性検証を支援

ギャップファンドプログラム (研究者・学生向け準備資金)

東北大学独自のギャップファンドであるビジネスインキュベーションプログラム（BIP）を2013年から実施



107件を支援

東北・新潟の大学で共同運営するみちのくギャップファンドを2021年から実施



うち東北大学
30件を支援

大学発ベンチャーへの投資

東北大学 ベンチャーパートナーズ 2015年2月設立



東北大学100%出資
ベンチャーキャピタル

第1号ファンド2015年8月組成
(96.8億円、10年) 26社投資

第2号ファンド2020年10月組成
(78億円、10年) 23社投資

▶ 1・2号合計で49社に投資

新規上場
6社

東北大学スタートアップガレージ（起業家育成プロジェクト）



- 常設コミュニティスペース（青葉山ガレージ・川内ガレージ・星陵ガレージ）で起業を志す仲間と交流する場を提供
- 起業塾・ピッチイベントを開催
- 大学シーズと企業とのマッチングを支援
- VC・金融機関と連携し資金調達を支援
- メンターが起業相談や立ち上げを全力サポート
- OBOG・アドバイザー陣がバックアップ
- スタートアップカフェ等多彩なイベントを開催

東北大学に起業文化を醸成し、東北大学発スタートアップを多数創出！！

次に、東北大学独自のスタートアップ支援システムをご紹介します。アントレプレナーシップ育成プログラム、事業性検証を支援するファンドプログラムのほか、起業後にはフォローアップとして運転資金を投資する制度もあります。当初は起業したい人はほとんどおらず、起業文化を醸成するところから始めました。素材・材料、エレクトロニクス・デバイス、情報通信・サービスといった研究分野とリンクしたディープテック分野の起業が多くなっています。

起業を志す者、起業経験者、支援者及び投資家等が集まるコミュニティの場として、3つのキャンパスに「ガレージ」と呼ばれる活動拠点を設けました。シェアオフィスやコミュニティハブの役割があり、登録も可能です。

さらに今年4月青葉山キャンパスに、新たにA202という起業家育成拠点もオープンしました。様々なファンドや支援基金も用意しています。

■ 質疑応答

Q: 様々な活動を行っていらっしゃいますが、組織はどうなっているのですか。

A: 産学連携機構には100人弱の職員がいます。知財部、産学共創推進部、企画戦略部、スタートアップ事業化センターの4部門に分かれています。簡単ではありませんが、ガバナンスをしっかりと効かせ、ベクトルを合わせることが重要ではないでしょうか。トップダウンとボトムアップをうまくミックスさせて運営ができるよう心がけています。

■ 閉会 :

2日間にわたって行われた分科会の結びに、清泉女子大学の可児氏（事務システム分科会幹事）が「東北大学様、今回はご協力ありがとうございました。ナノテラスを始め、規模が非常に大きく、日本をけん引している大学だと改めて感じました。見学も講演も大変勉強になりました。同じことは真似できないとしても、産学連携には我々も頭を悩ませているので、『プロジェクト型ではなくプラットフォーム型』等、新しい視点を得ることができました」と述べ、閉会となりました。

【 分 科 会 の 様 子 】

【1日目：片平キャンパス】



【2日目：青葉山キャンパス】



4. 【11月11日（1日目）】 参加校 [44校77名] ・参加企業[11社54名] ・参加総数[131名]

愛知学院大学 [1] 追手門学院大学 [2] 大阪産業大学 [1] 大阪大学 [2] 学校法人常翔学園 [1] 学校法人駒澤学園 [1] 神奈川大学 [1] 関西大学 [1] 関西国際大学 [1] 京都産業大学 [1] 共立女子大学 [3] 近畿大学 [2] 金城学院大学 [1] 慶應義塾大学 [3] 神戸学院大学 [1] 山陽小野田市立山口東京理科大学 [1] 城西大学 [4] 上智大学 [2] 成蹊大学 [1]	清泉女子大学 [1] 仙台大学 [1] 大正大学 [1] 大東文化大学 [1] 千葉工業大学 [1] 東北大学 [3] 中京大学 [2] 東海大学 [2] 東京大学 [3] 東京都公立大学法人 [1] 東京都市大学 [1] 東京富士大学 [1] 東京理科大学 [1] 東洋大学 [8] 東洋学園大学 [3] 徳山工業高等専門学校 [1] 名古屋市立大学 [1] 名古屋大学 [3] 日本女子大学 [2]	福岡大学 [1] 宮崎大学 [1] 武蔵野大学 [2] 名城大学 [1] 立正大学 [3] 流通経済大学 [1] アシアル株式会社 [3] 株式会社キャラタス [2] 株式会社セールスフォース・ジャパン [1] 株式会社リクルート [1] 株式会社早稲田大学アカデミックソリューション [7] 京都電子計算株式会社 [1] チエル株式会社 [1] 東京コンピュータサービス株式会社 [2] 富士電機 I Tソリューション株式会社 [1] 有限会社ハーティサービス [1] 富士通Japan株式会社 [34]
---	---	---

【11月12日（2日目）】 参加校 [24校37名] ・参加企業[5社 20名] ・参加総数[57名]

大阪産業大学 [1] 大阪大学 [2] 学校法人駒澤学園 [1] 京都産業大学 [1] 共立女子大学 [2] 金城学院大学 [1] 神戸学院大学 [1] 城西大学 [3]	成蹊大学 [1] 清泉女子大学 [1] 大東文化大学 [1] 千葉工業大学 [1] 東北大学 [3] 東海大学 [2] 東京大学 [2] 東洋大学 [4]	東洋学園大学 [1] 日本女子大学 [2] 福岡大学 [1] 福岡学院大学 [1] 宮城大学 [1] 名城大学 [1] 立正大学 [2] 流通経済大学 [1]	株式会社リクルート [1] 東京コンピュータサービス株式会社 [2] 有限会社ハーティサービス [1] 富士通株式会社 [1] 富士通Japan株式会社 [15]
--	--	--	---

5. 所感（事務システム分科会運営委員会）

今回の分科会では、初日に東北大学のDX推進事例として、「東北大学公式ポータルアプリの開発と展望」および「東北大学における仮想クライアントとChromebook導入事例」についてご講演いただきました。「東北大学公式ポータルアプリの開発と展望」では、多様なステークホルダーとのオンラインコミュニティ形成を目指したアプリ構築の背景やプロセス、現状について具体的にお話しいただきました。また、「仮想クライアントとChromebook導入事例」では、事務職員向けChromebook導入にあたっての具体的なプロセスや課題とその解決方法などが紹介されました。これらの事例は、DXが大学業務にもたらす可能性を実感するとともに、課題解決への新たな視点を与えるものでした。講演後に行われた意見交換では、各グループにて所属大学の現状や課題について活発に議論しました。DX推進における共通の課題や産学連携の成功例を共有し、他大学との協力や最新技術の導入方法について学ぶ貴重な機会となりました。

2日目は、「産学連携」をテーマに、東北大学産学連携機構の取り組み事例についてご講演いただくとともに、次世代放射光施設「ナノテラス」の見学を行いました。講演では、研究成果の社会実装やスタートアップとの連携事例が紹介され、東北大学の建学の理念の一つである「実学尊重」に端を発する産学連携に関する取り組みと、それを通じた価値創出の可能性が共有されました。「ナノテラス」の見学では、最先端技術の現場に触れ、技術と社会を結びつける事例を学ぶ貴重な機会となりました。

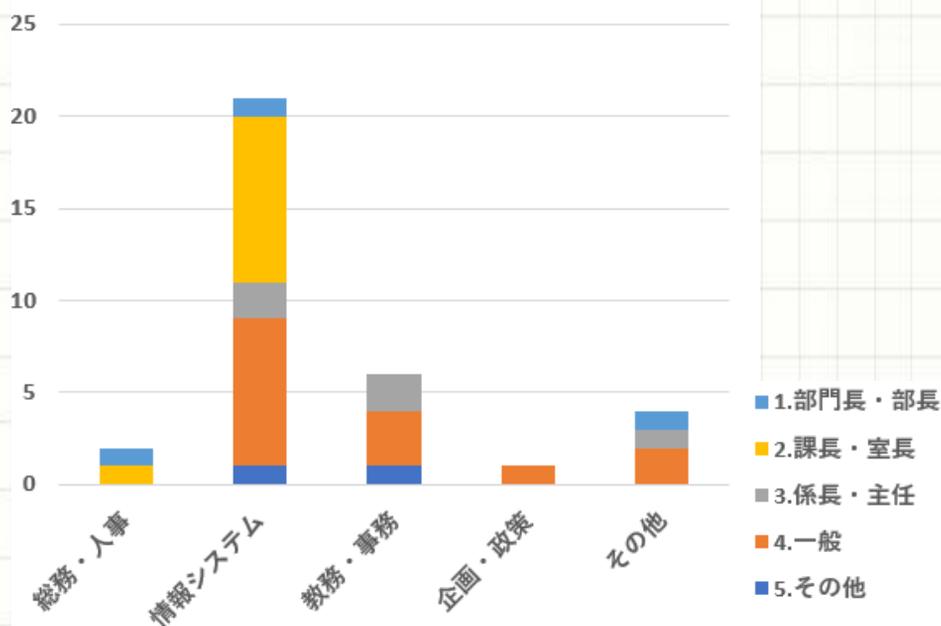
2日間の分科会を通じて、大学業務DXや産学連携の重要性を再認識しました。DXは各大学とともに関心が高いため、事務システム分科会運営委員会としても、継続的に取り組んでいきたいテーマと考えています。2日間にわたりご協力くださった東北大学の皆様へ、この場をお借りして感謝申し上げます。

【連絡先】

私立大学キャンパスシステム研究会 事務局
〒 212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1-5 JR川崎タワー
富士通Japan株式会社 P&Eビジネス戦略室内
E-mail : contact-csirken@cs.jp.fujitsu.com

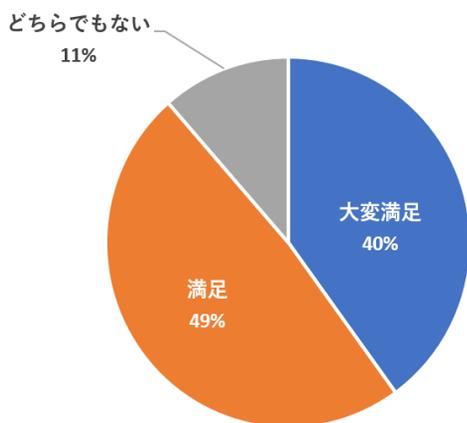
開催後アンケート結果 【回答数／対象者数：36／84（大学関係者のみ）】

■担当業務と役職について



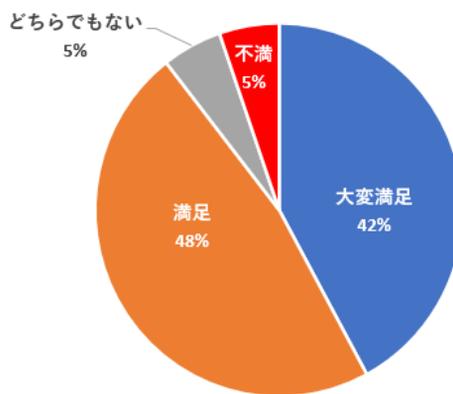
■今回の分科会 全体満足度について

【11月11日】



満足以上 : 89%
やや不満以下 : 0%

【11月12日】



満足以上 : 90%
やや不満以下 : 5%

【11月11日】

- 東北大学におけるデジタル変革（DX）推進の現状と将来構想について具体的かつ深い理解を得ることができた。
- 東北大学のDX推進チームは、事務機構長を中心に組織全体の協力体制を確立しつつ、メンバーの自主性とモチベーションを引き出す形で運営されている。
- 東北大学のDXの取り組み体制について生の声が聞けた。
- 東北大学の進んだDX推進と若手職員の活気を引き出す取り組みに感激した。
- 震災時、震災後の動き方という部分で、現在更新作業を行っている危機管理関係で参考になる部分があったため。
- 東北大学さんの学生グループが、積極的にWGに参加している点は、取り入れたい事例と思った。
- 大学DXアライアンスの情報が有益だった。
- 具体的な課題と解決策を学び、自組織のDX推進方策を検討する上で貴重な示唆を得た。
- 特に、「東北大アプリ」の開発や仮想クライアント・Chromebookの導入といった具体例からDXの先進事例について、踏み込んだ部分までざっばらんに聞くことができたから。
- 本学はアプリまではまだ検討できる状況にないと認識しています。仮想クライアントのお話を聞いて、今実施している端末入れ替えやWindows Update、Officeのバージョンアップについて手順書を書いたり、現場を見に行ったりの手間がかなり減るように思いました。
- 普通のCS研と異なり、国公立大学の参加も多数あり、今までにない情報交換ができた。
- 全国の大学や国公立の職員の方から情報共有する貴重な機会であったから。
- 講演やフリーディスカッションでしか知ることのできない情報を得ることができたため
- どのような規模からスタートするか、学生の利用率を上げるための対策、今後考えられる問題点など、参加された各大学のみな様、それぞれの視点で、多種多様な意見が聞けたのがよかった。
- 東北大学及び同じグループになった他の大学の方々からお話を聞くことができたため。
- 様々なコネクションもでき、事例も参考になり大変有意義であった
- 東北大のように全学を挙げての取り組みは運営側の理解が必須となり、ハードルが高くだちに模倣するのは難しいと感じた。
- ポータルアプリは、身分証としての利用をはじめ、様々なサービスとシームレスに連携し、利便性の高いサービスの実現を目指すものだが、JR各社では定期券購入にデジタル学生証の使用を認めていない点、試験時の本人確認としてはまだ抵抗感が強い点、ポータルサイトとの住み分けが明確ではない点等、課題も多しと感じた。導入後の話を再度聞いてみたいと思った。
- 情報交換の場に東北大学の関係者の方がいなかったこともありますが、今回は大学関係者が多く、もう少し時間が欲しいと感じたため
- ネットワークが使えなかったのも、不便だった。アライアンス等、東北大学の取り組みをその場で検索しながら講演を聞ければよかった。
- 今回が初めてのCS研参加で、他大学の情報を伺える機会も少なかったため、まずその部分で大変満足しております。
- DXを推進するにあたり、大学として学生へのサービス提供の考え方に気づきがあった。
- 既に取り組んでいたものが多く新たな知見は多くなかった。
- アライアンスに既に参加しており、多くの情報が事前に入手出来ていたことと重複していたため。

【11月12日】

- 産学連携やスタートアップ支援に関する具体的な取り組みは、地域社会との連携強化を図る上で大いに参考となった。総じて、DX推進には組織全体での取り組みが不可欠であり、多様なステークホルダーとの連携が鍵となることを再認識する機会となった。
- 国際卓越研究大学に認定された東北大学の産学共創の取組は、非常に規模の大きなものであり圧倒されるものだった。そう簡単に真似ができるものではないが、今後の研究成果を社会に還元していくことは大学の責務であり、刺激を受けるものだった。
- 経営したいがネタがない人とネタはあるが経営ノウハウがない学生をマッチングさせるための仕組みは大変すばらしく、また、このような取り組みがわかりやすくオープンになっており、必要な人が必要な時に情報を入手できると感じました。
- 起業して上場して終わりではなく、未来に向かって関係が続き、広がるような仕組みづくりに感銘を受けました。
- 内容的には非常に高度な取り組みであり、同レベルのことができる大学は数えられる程度かと思われるが、そもその基盤や考え方、取り組み姿勢という部分を本学規模に合わせながら何ができるかの検討材料にできればと思ったため。
- 企業化に向けて学生ベンチャーに支援する取り組みがすぎと思った。しかし本学の規模では到底追いつくことはなく参考にするには高度過ぎた。
- 産学連携の分科会に関しては、ただ施設を用意するだけでは企業側も大きなメリットがありませんので、知財も提供し、「共創」という部分に魅力を感じました。
- ナノテラスは産学連携の一環であることが良く分かった。繋がりのある話が聞いて良かった。
- ナノテラス見学・産学連携についての分科会のどちらも講演内容がわかりやすかったため。
- ナノテラスは想像以上の研究施設でただただ圧倒されましたが、なかなか体験できない見学になりました。
- 普段では行く機会もないかと思うので貴重な経験になりました。
- ナノテラス見学は、校外学習のような雰囲気でも、楽しみながらも非常に勉強になりました。
- 非常に興味深い施設であったが、東北大学のキャンパスも魅力的だったので、もう少しキャンパスを見て回ることができると、うれしかった。
- 産学連携は、とても貴重な先進事例のご講演がきけた半面、私の知識不足でなかなか我々の実務に結び付けたり、イメージすることは難しかったです。
- ナノテラスは民間利用のハードルが低く、規模の小さな企業でも世界レベルの施設が使えるという夢のような施設。もう少し詳しくお話を伺いたかった・・・。
- ナノテラス、産学連携とも、自大学の規模と比べて考え方や取り組み内容が想像以上に大きく、自大学では経験できない内容だったため。

■ 今後、CS研で実施してほしいイベントやテーマについて（一部省略・抜粋）

【11月11日と11月12日】

- 施設設備のDXについて
- 乱立する学内コミュニケーションツールをどのように統合、もしくは最適化していくのか
- 今回国立大学の取り組みにて開催いただきましたが、私立大学ではまだまだ実現が難しい部分ありますので、私立大学の中で積極的に取り組まれている大学ありましたら、企画いただきたいと思います。
- 教務システムのパッケージ、カスタマイズの各大学の意見交換
- 職員にとって理想的な事務環境とは（DXを推進した場合の）
- AIの授業活用とオンライン試験における運用上の注意点
- この先、学生はAIを技術として生活していくことになる。その視点で考え、今のタイミングから、AIをどのようにパートナーのような技術として学んでいくべきかといった視点で新しいLMSの機能を一緒に検討したい。
- 生成AIの活用について
- 事務部門における生成系AIの活用事例や導入時の留意点等
- 生成AI 導入と効果測定
- 高校生にとってBYOD環境のメリットはあるのか
- 今回はDXでしたが、ネットワークセキュリティにおいて本学では多くの課題がありますので、セキュリティのセミナーや積極的に取り組まれている大学等ありましたら、企画いただきたいです。
- テーマではないが、年1回くらいは遠地での開催がやはり盛り上がりと思ったので、次年度もお願いします。普段見かけない方の参加が多くあり、とても新鮮であった。

■ CS研についてのご意見・ご要望について（一部省略・抜粋）

【11月11日と11月12日】

- 意見交換会にもう少し工夫があると良かった。東北大学の方ともう少し話したかったが、業者のような方がずっと話されていて、公演を聴くような状況だった。
- 多くの大学とコネクションもでき色々対話もでき、非常にいい機会となりました。
- 基本的にシステムをベースにしたご講演が多いため、本学内でもメディア系の部署が参加することが多いですが、今回のように全学的に跨るようなテーマが設定されると参加しやすいとは感じました。ただ、専門性を突き詰めた講演内容であっても、それは各大学の特性を伸ばすうえでは重要だと思いますので、あまり広く浅くなりすぎなくても良いと思います。年1回くらいあると嬉しい程度です。
- 参加された皆様がお話された内容も、今後のシステム開発の方向性について参考にさせていただきます。
- この度は開催ならびに参加させていただきありがとうございました。分科会はもちろんですが、他大学の状況を確認できる充実した機会になりましたので、今後さらに大学間の状況を共有できるような研究会や体制になることを期待しております。
- 2日間にわたりすばらしい会に参加できたこと、大変うれしく思っております。今回のテーマは、私が担当している業務に直結した内容で、本学でも試行錯誤している学生アプリの構築運用や、入学前～在学生～卒業生・一般のつながりについて考えを深めるよいきっかけとなりました。
- 今回のように大学関係者の参加が多いとうれしく思います。
- ハイブリッドの運営がもう少し安定的にできると良いなと感じた。
- 国公立も参加できるように私立大学という文言をとってもいいのではないかと
- 今回オンラインで参加しましたが、グループディスカッションのオンライン上のフォローについては、もう少し工夫が欲しいと思いました。
- 全体発表の時にはプレゼンターの動画を配信するなどがあれば、良かったと思います。
- オンラインでも意見交換させてほしいかった。
- 期間限定で構いませんので、オンライン録画を後日閲覧できると聞き逃しの防止や要点の再確認ができて有用かと思われます。（オンライン参加の場合、急な学内呼び出し等で市長が途切れることが多々あるため）
- 難しい部分だとは思いますが、意見交換で周囲が話している中での聞き取りはかなり大変でした。ところどころ他の班の方の声をよく拾ってしまっていたため。